

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 18人

② 算数 18人

③ 理科 18人

5 留意事項

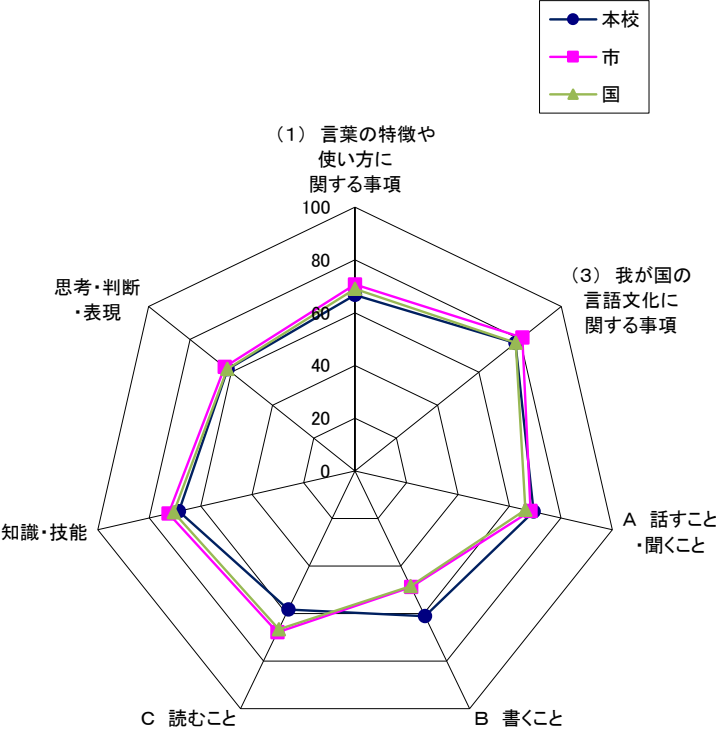
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	66.7	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	69.4	68.2	66.2
	B 書くこと	61.1	48.9	48.5
	C 読むこと	58.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	68.5	72.5	70.5
	思考・判断・表現	61.8	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

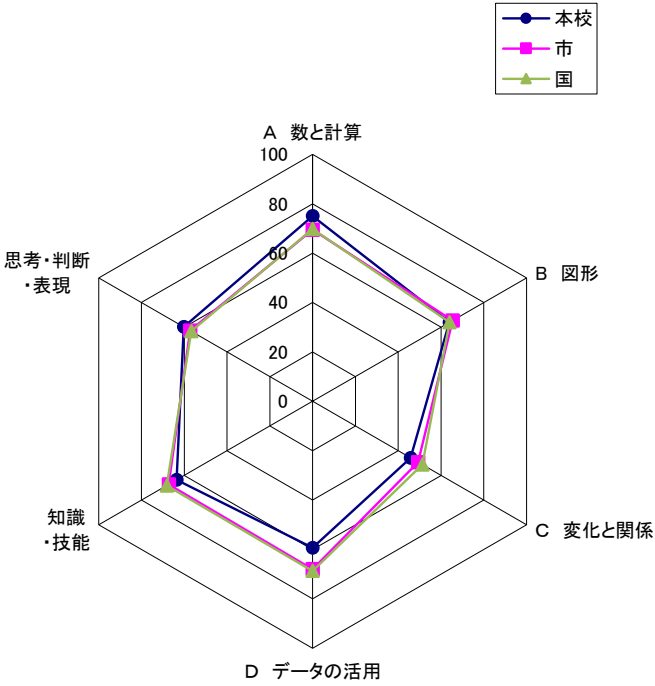
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は66.7%で、国の正答率をやや下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることや、話し言葉では誤解されやすい同音異義語を避けるとよいことに気付くことができるように指導する。 ・漢字について、当該学年での新出漢字だけでなく、すでに学習した漢字を繰り返し学習する機会を設け、文章の中でも使用できるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は77.8%で、国の正答率と同程度である。	・読みやすい文を書くためには、点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くことや、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことを指導する。
A 話すこと・聞くこと	○平均正答率は69.4%で、国の正答率を上回った。	・自分の考えと友達の考えを比較して聞き、自分の考えを深めていけるような学び合いの時間をつくるとともに、国語の授業以外でも話し合い活動を充実させる。
B 書くこと	○平均正答率は61.1%で、国の正答率を上回った。 ○「条件に合わせて、文章のよさを書く」問題はよくできていた。	・今後も、行事作文やお礼の手紙等、書いて表現するという活動を日常的に行い、書く力を身に付けさせる。その際、目的に応じて、与えられた条件で文章を書くようにし、様々な形式の文章が書けるようにする。
C 読むこと	●平均正答率は58.3%で、国の正答率をやや下回った。 ●「物語を推薦する文章の、□に入る内容として適切なものを選択する」問題で課題が見られた。	・物語を読む際には、登場人物の相互関係や心情などを、複数の叙述を基に考えられるようにする。また、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果に着目して読んだりできるようにする。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	75.0	69.5	69.8
	B 図形	63.9	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	45.8	49.3	51.3
	D データの活用	59.3	68.0	68.7
観点	知識・技能	63.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	60.3	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

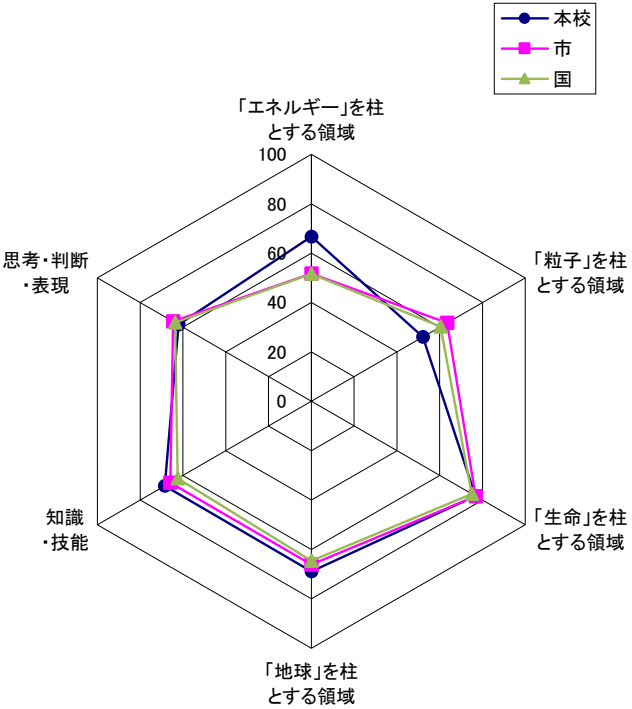
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○平均正答率は75.0%で、国の正答率を上回った。 ○「カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く」問題がよくできていた。	・今後も、基本的な計算の定着に向け、朝の学習や全校で取り組んでいる復習プリント(マスターカード)による復習を継続する。 ・数の処理において、具体的な場面に対応させながら、乗法を用いたり、公倍数や公約数を用いたりすることができるように指導する。
B 図形	○平均正答率は63.9%で、国の正答率と同程度である。 ●「長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く」問題で課題が見られる。	・図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、多様な作図の仕方を考えることができるようにする。 ・作図の手順から、どのような図形ができるかについて判断したり、作図の仕方を筋道立てて説明したりする活動を充実させる。
C 変化と関係	●平均正答率は45.8%で、国の正答率をやや下回った。 ●「果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mlのときの、果汁の量を書く」問題で課題が見られる。	・日常の具体的な場面に対応させたり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりする活動を充実させ、割合の意味を理解できるようにする。 ・伴って変わる二つの数量については、比例の関係を見だし、未知の数量を求める際には、式や言葉を適切に使って記述できるようにする。
D データの活用	●平均正答率は59.3%で、国の正答率を下回った。 ●「1, 6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ」問題で課題が見られる。	・グラフや表を読み取る学習において、タイトルや縦・横軸に着目して、どのような内容をまとめているのか、何が分かるのかを丁寧に読み取らせる。 ・他教科においても、グラフや表を読み取ったり作成したりする学習を積極的に取り入れる。

宇都宮市立篠井小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	66.7	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	52.2	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	76.7	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	68.9	66.1	64.6
観点	知識・技能	68.5	65.9	62.5
	思考・判断・表現	62.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は66.7%で、国の正答率を大きく上回った。 ○「光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ」問題がよくできていた。	・実験を行う際は、対象物の差異や共通点について考えながら観察させ、図や言葉でまとめることを通して理解を深められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は52.2%で、国の正答率を下回った。 ●「水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ」問題で課題が見られる。	・観察、実験などの後に結論を導きだすときに、予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えの比較を通して、自分の考えを見直しながら、多面的に考えとといった考え方を働かせて考察を行い、問題を解決したりできるような活動を充実させる。
「生命」を柱とする領域	○平均正答率は76.7%で、国の正答率と同程度である。 ○「昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ」問題がよくできていた。	・予想や仮説を基に、複数の昆虫の体のつくりについて繰り返し観察したり、他者に説明したりする活動を取り入れ、昆虫の体について理解を深められるようにする。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は68.9%で、国の正答率を上回った。 ●「夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ」問題で課題が見られる。	・問題に対して予想や仮説をたてるだけでなく、自分の考えとは異なる他者の予想も捉え、予想が合っていた場合に得られる実験の結果を見通して、観察、実験を行うようにする。

宇都宮市立篠井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問では、当てはまると回答した児童の割合が94.7%であり、ほぼ全員であった。いじめについて、強調月間を設けたり、いじめゼロ標語を掲示したり、全校体制で取り組んでいる成果であると考えられる。今後も、一人一人に目を向け「安心・安全な学校」を目指していきたい。

○「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の質問では、半数を超える児童が週に1回と回答し、国の割合を大きく上回った。また、「友達と意見交換する場面」や「自分の考えをまとめ、発表する場面」での使用頻度も多い結果となった。授業において、積極的にICTを活用してきた成果であると考えられる。今後も、ICTの効果的な指導方法を学び、児童にとって有意義な学習を展開できるようにしていく。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が84.2%であり、国の割合を大きく上回った。学級での話し合いを進んでいき、児童の意見を大切にしてきた成果であると考えられる。今後も、話し合いの質の向上が図れるよう、指導していきたい。

●「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、肯定的回答をした児童が半数近くいる一方で、当てはまらないと回答した児童の割合が、国の割合を上回った。児童のよさを認め励まし、自尊心を一層高められるようにしていきたい。また、特別活動や総合的な学習の時間を通して、意識的に声掛けをしていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問では、全くしないと回答した児童の割合が、国の割合を上回った。朝の学習時間に、進んで読書を取り入れたり、学校図書館司書や司書教諭とも連携して、お薦めの本を紹介したりなど、児童が本に興味をもてるような環境づくりに力を入れていく。また、家庭の協力を仰ぎ、家庭での読書時間を生み出せるようにしていきたい。

宇都宮市立篠井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
だれもが「できた！」「わかった！」を実感できる、つながりのある授業の実践	・児童の主体的な学びを引きおこす課題設定の工夫 ・宇都宮モデルを意識した授業の展開 ・つながりのある対話的な学びの場の設定	・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という設問に肯定的回答をした児童の割合は84.2%で、全国の割合を上回っている。 ・「国語・算数・理科の授業内容はよく分かりますか」という設問に肯定的回答をした児童の割合が、すべての教科においてほぼ100%である。 ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という設問に、肯定的回答をした児童の割合は84.2%で、全国の割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語では「読むこと」、算数では「データの活用」、理科では「粒子」の領域において全国平均を下回った。	・苦手とする領域を意識した指導の充実	・朝の学習や宿題、学校全体で取り組んでいる復習プリント（マスターカード）を活用する。 ・国語では文章を読み取る問題を多く取り入れ、様々な文章に触れる機会を設ける。 ・算数では表やグラフなどを正確に読み取り、得られた情報を整理してまとめるといった機会を多く取り入れ、他教科でもデータの活用を図り、定着を促す。 ・理科では、実験・観察を行う際に、根拠のある予想を立てたり、予想に対して得られた結果がどうであったかを振り返ったりする活動を充実させ、自分の言葉で説明しまとめられるようにする。